

第2分区B 戦略計画 アンケート

クラブ名	戦略計画	作成時期	何期目	どのように作成されたか
伊勢崎 RC	<p><b>【ビジョン】</b></p> <p>伊勢崎ロータリークラブは諸先輩たちの残した歴史と伝統を大切に、会員相互の親睦をはかり、さらに積極的な奉仕活動を実施し、地域社会で誇りあるクラブを目指します。</p> <p><b>【行動計画】</b></p> <p>1. 奉仕事業を実践する            当クラブ会員は職業奉仕を通じて、地域社会に価値を提供するとともに、雇用の創出を実現しています。また当クラブは、長年に渡って展開している社会奉仕・国際奉仕・青少年奉仕活動を、今後ともより一層充実させ、社会のニーズに応じた社会貢献・国際貢献を実践していきます。こうした様々な活動が地域社会（伊勢崎周辺地域）での知名度を上げ、ロータリークラブ全体の公共イメージの向上に繋がることを目指します。</p> <p>2. 親睦を通じてロータリーの友情を育む            会員1人1人が四つのテストを実践し、自己研鑽を積むことにより、相互に尊敬し合い、社会からも尊敬されるクラブを目指します。            魅力あるクラブ運営や充実した親睦交流を通じて、会員相互がロータリーの友情を育み、思いやりや感謝、協調性や連帯感といった豊かな心のもとに惜しみないクラブ奉仕を実践し、誰もが心から愉しめるクラブライフを実現します。</p> <p>3. 躍動する組織体制を確立する            単年度制のロータリーの組織にあっても、長期計画をしっかりと見据えた上で、年度年度の事業計画が十分に検討され遂行されていくことを目指します。            今後ともリーディングクラブを目指すため、クラブリーダーの養成を実践します。            特に奉仕事業（地区補助金・グローバル補助金）のリーダーは、企画から実施まで複数年にわたるため継続性を重視して選任します。            80名を達成した会員増強については今後とも80名以上を維持します。新会員については引き続きメンターを設定し、家庭集会や新会員セミナーを通じて真のロータリアンへの道程をサポートし、退会防止に努めます。</p> <p>4. 魅力ある例会運営を実践する            ロータリークラブの最大の魅力は毎週1回例会が開催され、そこで会員全員に会えることでもあります。            2016年4月の規定審議会に於いて、RIの標準ロータリークラブ定款の改定があり、例会の開催頻度が、原則として「毎週1回」としつつも細則で「毎月最低2回」とすることが許容されましたが、当クラブは今後とも毎週1回の例会を開催致します。            第1例会から第5例会の特性を考慮し、プログラムの充実やクラブフォーラムの時間を大切に、60分の例会を、和やかな中にも知識や見識を高め、秩序や品格を持ったものとします。夜間例会や1泊例会等を取り入れ、会員相互のコミュニケーションを醸成し親睦を深めることを目指します。</p>	2016年	2期目	<p>第1期長期計画策定から3年目の2015-2016年度に第2期（現在）の長期計画が策定されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期計画策定委員会を設置（会長エレクトを委員長とした9名の委員会）</li> <li>・委員会会議を3回開催（下記は委員会進行手順）</li> </ul> <p>1) 過去3カ年の長期計画実施状況を報告</p> <p>2) 現行ビジョンの達成度を検証</p> <p>3) 目標とするべきクラブの将来像を協議</p> <p>4) 長期計画原案を作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標とすべきクラブ像について6つの目標を確認した。ビジョンの構成では目標達成のためのキーワードを挙げて協議し、奉仕・親睦・組織・例会体制を中心とした実践内容を定めた。</li> <li>・原案を理事会にて協議審議、会員へ資料を事前配布、クラブ総会にて承認</li> </ul>

クラブ名	戦略計画	作成時期	何期目	どのように作成されたか
群馬境 RC	<p>1. 継続と進化</p> <p>会長幹事や委員長が単年度制である為、継続性が希薄であるところが当クラブの弱点である。</p> <p>クラブと事業の運営に継続性を持たせる。一方で単年度制の良い面である会長幹事や委員長の独自の方針や事業を取り入れ、活動内容のマンネリ化を防ぐ。この両方の良さを取り入れ（ハイブリッド化）で「継続と進化」を成し遂げクラブの活性化を図る。</p> <p>① 委員会方針（事業計画書）に下記を盛り込む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 今年度方針</li> <li>b. 前年度事業と反省点</li> <li>c. 今年度の事業計画と抱負</li> <li>d. 前年度決算と今年度予算</li> </ul> <p>② スケジュール管理の強化</p> <p>クラブの年間事業計画をもとに毎回の理事会にて、幹事が主体となり、いつ何をすべきかを全員に確認する。</p> <p>事業の準備や実行の漏れがないようにする。委員会ミーティングの日程も決める。</p> <p>③ 委員会の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 会長幹事からの指示がなくとも、各委員会が自主的に自律的に活動できることを目指す。</li> <li>自主的に委員会を開催し、自主的に理事会に議題を出す。</li> <li>a. 理事会の開催前に議題を各委員長から提出する様にメーリングリストで議題を募る</li> <li>b. 委員会のスケジュールを委員長と会長幹事で年度始めに決める。事務局を通して委員会開催を設定する。</li> </ul> <p>④ プロジェクトチームの活用</p> <p>特に地区補助金に関して、年度ごとのプロジェクトチームを編成し、申請や報告を財団委員長に集中させるのではなく、チームで分担して遂行する。コンサート（ライブ）事業等もプロジェクトチームを編成して運営する。</p> <p>（例）2019年度 赤レンガプロジェクトチーム 2020年度 高等特別支援学校プロジェクトチーム</p> <p>⑤ 会員増強</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 毎週第二週に会議を開催し、候補者リストを作り実際に行動する。</li> <li>◇ 十分な活動予算を確保し、機能不全を解消できる規模を目指す。</li> <li>◇ クラブを進化させ社会に貢献し自然に公共イメージが高まり、クラブの事業内容を理解した方々が喜んで入会するクラブづくりを進める。</li> <li>◇ DEI の推進のため、女性会員、新しい職業の会員など幅広く候補者を探す。</li> <li>◇ 定時例会に出席しにくい会員に配慮した例会変更活用を模索する。</li> </ul> <p>⑥ 役員会の開催</p> <p>2023-2024年度では「継続と進化」を具現化するため、役員会を開催し、今まで会長幹事で相談しきめていたこと、またこれを受けて議論していたことを、直前・現・次期会長幹事等で構成する役員で相談することとし、理事会では議決機能を高める。</p> <p>2. 事業の拡大</p> <p>① グローバル補助金事業へのチャレンジ</p> <p>小さなクラブでも大きな事業ができることを示しクラブの魅力とし会員増強にもつなげたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>a. 2020～2021年度にタイ・スリウォンクラブと浄水器のグローバル補助金事業を行う。</li> <li>b. 2840地区にリクエストのある事業に受け入れを表明し、毎年継続してグローバル補助金事業を行う。</li> <li>c. 日本に災害が起きた際に、当クラブからリクエストし日本国内にグローバル補助金事業を実施する。</li> </ul> <p>② 未経験の事業を取り入れボランティアの幅を広げる</p> <p>優良で世の中で必要とされている勇気ある事業を行っている団体に敬意を示し寄付を行い、ローターアクトや当クラブ会員を派遣することで、クラブの事業の範囲を拡大する。最初はお手伝いから始めて徐々にクラブの事業として取り込むことを目指す。災害への直接的な奉仕を行うことで、真のボランティア団体を目指し、公共イメージも向上させる。</p>	2023年	2期目	会長、クラブ研修リーダーと理事会で決定。

クラブ名	戦略計画	作成時期	何期目	どのように作成されたか
伊勢崎中央 RC	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 寄付行為について R財団、米山奨学、ポリオ等への寄付を当たり前の行為とし、地域社会への奉仕の気持ちを忘れないクラブを目指します。特にR財団における地区補助金事業の実行などは多くの会員に出席してもらい地域貢献を体験してもらうことも必要である。</li> <li>• 会員増強と親睦 より良いクラブ運営をするために会員増強を全員が常に意識し勧誘する。また会員が退会防止のためにもメンバー内での声掛け運動や趣味の会を利用し魅力あふれるクラブにする。先輩会員と新入会員が交流を深められる事業も行う。 会員が入会しやすいように細則の見直しなども時代に合わせ、変更することも必要である。</li> <li>• 出席率の向上とメイクについて  クラブ発展にはメンバー自身のレベルアップが必要である。レベルアップするためには例会への出席が必要不可欠と考える。出席することが当たり前のクラブになるようなクラブ運営を心がける。どうしても出席できない場合には他クラブへのメイクを利用し、研鑽する姿勢を忘れないようにする。</li> <li>• 50周年に向けて 50周年に向けてメンバー全員が誇れるクラブになれるようにこれからも長期計画を時代にあった体制に見直せるよう議論し発展し続けるクラブにする。</li> </ul>	2020年	3期	クラブ戦略計画策定委員会立ち上げのもと、委員会にて協議のうえ策定。
伊勢崎南 RC	<p>『全員参加の楽しい奉仕』</p> <p>会員増強純増3名</p> <p>会員相互理解の為の例会時5分スピーチ</p> <p>クラブ研修リーダーによるクラブ研修の実施</p>			
伊勢崎東 RC	<p>目標・事業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○会員増強 純増5名</li> <li>○勉強会の開催 新入会員に対して「ロータリーの友」を推奨しよう</li> <li>○親睦でみんな仲良く協力しよう。 ゴルフ部、登山部、旅行などを推奨・支援する。</li> <li>○新入会員とのコミュニケーション 入会したけれどあまり出席しない会員を親睦活動に誘って、コミュニケーションを図ってみる。</li> </ul>	2021年	2期目	2021-2022年度 会長幹事が査定